

中央設計技術研究所

受注領域の拡大へ邁進

第57期経営計画発表会開く

中央設計技術研究所 (金沢市、中辻英二社長) は10月30日、今期のキックオフとなる第57期経営計画発表会を金沢市アトホールで開いた。

例年10月期のスタートに合わせて開催しているもので、同日は全国から150人を超える社員が参加した。

和に続き、中辻社長が今期の経営方針を発表。このなかで「前期の受注は29億1700万円と目標を上回るすばらしい業績が達成できた。売上高も

右肩上がりの良好な業績を継続し、営業利益率もコンサルタント業界でトップクラスに入ってきた」と前期を振り返り、今期経営目標について「業績の安定には受注が第一であり、大手建コンと戦いながら受注領域を拡大する。DB、DBOなどの官民連携事業による安定受注を目指した」と力強く語った。

具体的な施策として広島事務所の開設や、九州北部を中心にR&Sと連携再開拓、群馬事務所開設による関東・北関東への営業強化などの方針を示した。

また、将来を見据えた研究開発・技術開発に今期から取り組むほか、企業説明会を増やすなど人材採用のための投資を行うことも宣言した。

社員全員での経営理念の唱和の中辻社長から表彰を受ける女性社員



また、引き続き各本部長、各部長らが部門・事務所ごとに今期の

方針を発表。管理本部では広報活動の推進、営業本部では今期受注目標28億5000万円の達成、技術本部では勉強会の改善による資格取得の拡大などを目標に挙げた。

その後、各種協議会・ワーキンググループ活動報告、永年勤続表彰や業績表彰などを執り行い、今期計画の達成に向けて全役職社員が決意を新たにした。